

## 2019年度 自己評価報告書

2020年3月19日

学校法人 北海道キリスト教学園 湖畔幼稚園

### 1. 本園の教育目的

「神様の愛と恵のもとに生かされている喜びを分かち合う」

神さまが愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神さまのかたちに造られた私たちには神さまの限りない愛が注がれています。その神さまの愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。園生活を通して、神さまの愛のもとで保育者や友だちと喜びを共にし、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切に、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

### 2. 本園の教育目標

- ・子どもが、自分自身が大切な存在として受け入れられていることを感じとり、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができるようになる。
- ・子どもが、イエスさまを身近な存在として知ることを通して、見えない神さまの恵みと導きへの信頼感を与えられ、イエスさまと共に、日々を歩もうとする思いを与えられる。
- ・子どもが、自分と他の人との違いを認めると共に、違いを認めつつ一緒に生活するための努力ができるようになる。
- ・子どもが、こころを動かし、探求し、判断し、想像力をもち、創造的に様々な事柄に関わるようになる。
- ・子どもが、私たちの生きる自然や世界を神様の恵みとして受けとめ、自然や世界の事柄に関心を持ち、自分たちのできることを考え、行うようになる。
- ・子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに抵抗することができるようになる。

### 3. 本年度の重点目標

1. 今年度の保育の年主題聖句『その人は流れのほとりに植えられた木。詩編1章3節』より、年主題『ことばに満たされて～ひびきあう』に基づき、神様のみ言葉の恵みの中、互いに挨拶などことばを交わすことを大切に、人と人の豊かな心の交わりを深めることができる保育を目指す。
2. 今年度のユネスコスクールのテーマである『命をつなぐ～命のサイクルプロジェクト』を通じ、様々な『命』をいただきながら生きていることを実感し、神さまが与えてくださっている恵を感謝する。また、前年度からの栽培活動や各教育機関の方々と連携した取り組み、また、牧場や市場、小売店の見学などを通じて食への関心や理解を深め、ピザやピザ窯作りに挑戦し、多くの方々との交流を楽しみながら活動する。
3. 前年度の自己評価の課題としてあげられた「環境の構成」について、園内にはない自然物を持ち込むことで、子どもたちが季節を感じながら遊びや制作に活用できるよう配慮する。また、子ども達の興味や関心に応じて、自ら主体的に遊びを展開できるような用具や素材、場や空間などの構成に努める。

4. 教職員による評価項目に対する自己評価

評価項目	取り組み状況	評価
I. 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度始めに、新教育要領の内容を学び、それに基づいて今年度の保育をどのように展開していくかを話し合っている。</li> <li>・キリスト教保育に基づいて、園が目指す子どもの姿をイメージしていくが、新任の教師はそのことがなかなかイメージできなかつたようである。</li> <li>・全体で年間計画を立て、各学年で月案、週案、日案を立てるが、リーダーがリードし、その時々の子ども達の興味・関心に合わせて臨機応変に計画することができた。</li> <li>・今年度、課題としてあげられていた「環境の構成」は子ども達が季節ごとに廃材などを使って装飾を作り、季節を感じる事が出来た。ただ、こちらが準備したものに限られていた為、子ども達が自由に選べるような環境設定が必要だった。</li> </ul>	3. 5
II. 保育の在り方・幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はことばを大切に一人一人の子どもたちと丁寧に関わりことばを交わし、「心の声」をも汲みとるよう努めた。</li> <li>・クラス担任だけが一人でクラスの子どもたちを保育するのではなく、全教職員で全員の子どもたちを保育しているという思いで、一人ひとりを見つめ、その子の良いところを認め、伸ばすよう子ども様子を教職員間で話し合うよう努めている。</li> <li>・生活の基本である挨拶は、教職員が見本となり、日々の繰り返しの中で、子どもたちがとても自然に交わせるようになり、気持ちよく1日を始めることが出来た。</li> <li>・満3歳児が年少組に加わって活動したり、年少児と年中児が合同で行う「お楽しみ発表会」の内容をこれまでより、混合で行う内容を心がけたり、年長児が満3歳児・未就園児のお手伝いをしたりして、縦の関わりが充実した。</li> </ul>	3. 6
III. 保育者としての資質・能力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育には教師自身の人間性が重要であるという認識のもと、日頃から自己研鑽に励む努力をしている。</li> <li>・日頃から読書、新聞を読む、芸術に触れるといった感性を豊かにすることを実践するよう心がけている。</li> </ul>	3. 7
IV. 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの園での様子は連絡ノート、お便り、ブログ、また、面談や電話などで連絡を密にするよう努めている。</li> <li>・保護者からの相談や質問などに対しても、園長・副園長などに報告、相談をして丁寧に対応するよう徹底している。</li> </ul>	3. 6
V. 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅街に園が位置していることから、自然との関わりは少ないが、外から自然物を持ち込んだり、近隣の公園に出かけたりした。しかし、頻度としては少なく、次年度の課題となる。</li> <li>・ユネスコスクールの取り組みから、北海道教育大学、くしろせんもん学校の先生や学生との交流は昨年度に引き続き行われ、充実した時となった。また、老健たいようのお年寄りの方とのふれあいも長年続いている。お年寄りの方は子どもとのふれあいが励みや力となっているとうかがい嬉しく思う。子ども達にとっても優しい気持ちやいたわりの気持ちが育っていることを感じている。</li> <li>・小学校との引き継ぎはどの小学校も同一の「引き継ぎシート」が用いられるようになったので、記入しやすく、引き継ぎがスムーズになった。</li> </ul>	3. 1
VI. 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、全教職員が参加した研修会は延18回であったことは評価できる。</li> <li>・研修会の内容が特別支援教育を中心に、保育のあり方、救命救急など一部のものに偏り、多岐に渡った内容ではなかつたことやおのおのが自ら研修することはなかなか難しいようであることで評価が低くなっている。</li> </ul>	3. 0

4 : あてはまる 3 : 大体あてはまる 2 : あまりあてはまらない 1 : あてはまらない

## 5. 次年度以降に取り組む課題

- ・今年度の保育の年主題聖句『喜びと平和とであなたがたを満たす。ローマ人への信徒の手紙 15 章 13 節』より、年主題『こころが満たされる』に基づき、神さまに無条件に愛されている一人ひとりであることを感じながら、安心して園生活を送り、自己肯定感が育まれる保育を目指す。
- ・今年度のユネスコスクールのテーマである『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』を通じ、未来を担う子どもたちの心とからだの豊かな成育のため、質の高い教育を目指し、教師の学びや園における子どもたちの健康で安全のための環境づくり、運動あそび等の充実化を図る。
- ・年齢別のクラス編成であるが、現在取り入れている異年齢の活動をさらに深め、子どもたち同士の豊かな関係性を育む。
- ・現代の子育て事情の中で育児に悩む保護者に寄り添い、育児相談や子育て支援を積極的に行うため、子育て支援事業の働き（未就園児クラス、預かり保育、園開放）を充実させる。
- ・災害や緊急事態時に備えて危機管理マニュアルを見直し、教職員間で共通理解をし、意識の向上に努める。